

## 『原初的な未来の建築』

藤本壮介著／INAX 出版

この本は建築家である著者がこれまで施行した建築物の紹介を通じて、建築に対する彼の思想を紹介した本である。英語と日本語の二言語で書かれており、出版から1年足らずで既に2版3刷されたちょっとしたベストセラーである。彼の建てる建築物は一般の建築物とは明らかに異なる。そこには一つの明確な挑戦－境界への挑戦－が感じられる。それはあるときは空間と物体の境界であり、家と町との境界であり、自然と人工物の境界であるのだが、そのあたりをデジタルに切り分けてしまう「通常の」建築から可能な限り曖昧に混在する建築を試みる。彼はそれを「弱い建築」という。

一つの好例がHOUSE-Nと呼ばれる建築物である。三層の四角い穴だらけの白い箱による入れ子型構造をなしているこの家はどこからがソトで、どこからがウチかが一見ただけではわからない。実際は一番奥の箱にリビングとダイニング、真ん中の箱にキッチン、お風呂、寝室などがあり、最後の箱は庭である。そして箱の中の木は近々生い茂り、穴からあふれ出ることになっている（写真参照\*）。

彼は著書の中で次のように語っている。

外部は建築ではない。内部も建築ではない。外部と内部がどのように接続されているか、が建築である。

壁を立てることは、空間を0か1かにわけてしまう。

でも本当は、空間には、0と1の間のグラデーションの豊かさがあるはずだ。

こうした記述は、建築に限らず、さまざまな分野とつながるのではないだろうか。私がこの本を読んで真っ先に思い出したのは、学生時代に学んだ認知言語学である。認知言語学と聞いてイメージが浮かばない人も多いと思うが、ルビンの壺を知っている人は多いだろう。正面の白い部分を見れば壺にみえるが、黒い部分を見れば人が向かい合っているように見える。通常人間は中心にあるものを図と見て、周辺にあるものを地と見ようとする。ルビンの壺はこの認知傾向を利用した図だ。認知言語学はこのように何を地と見て、何



---

を図と見ようとするか、そういった自然な人間の認知のありかたは、図形に限らず、言語表現にも反映されているという発想である。彼の建築は、こうしたルビンの壺のような、図と地が曖昧なバランスで存在する建築のように思える。もちろんこうしたことも、本書を読んで感じることではあるのだが、認知言語学を思い出したのは、むしろ別の理由からである。

言語学には二つの立場があるといわれている。それは、言語を人間の外側にあるととらえる立場（生成文法等）と、言語は人間の内側にあるととらえる立場（認知言語学）、である。前者の立場に立つ人は、言語には自然法則のような普遍的な法則のようなものがあり、その法則の表層的な現れとして各国語のバリエーションがあると考え、そしてその普遍的な法則を可能なかぎり追求しようとする。そこには当然説明できない現象が存在するが、普遍的な法則にあわないものは例外として排除しようとする。後者の立場に立つ人は、言葉の製造を司る人間の内側（認知機能）をできるだけ明らかにし、あらゆる言語現象を認知のあり方に基づいて説明しようとする。しかし、その分析は法則性を追及する立場の人間からはいささか周縁的で、一貫性を欠き、説明も「お絵かき」のように見える。（今はどうか知らないが）お互いの学問的立場は対立している様子であった。

私自身は、言語は人間のウチとソトのどちらでもなく、あえていえば境界にあると思っている。その根拠を示すことは紙面と能力の問題で割愛するが、大事なことはそうしたウチかソトかのどちらかを前提として議論するのではなく、曖昧な境界性を有するものとして率直に対峙することであり、その境界に対する感受性は、どの分野でも普遍的な重要性を持っているのではないか、ということである。

この本の著者は建築を通してそうしたウチとソトの境界に意欲的に向き合っている。彼の建築が多数写真で紹介されているので、写真集のように本を見ることも楽しみの一つだが、書かれていることも非常に示唆的である。彼は間違いなく境界領域に対する稀有な感受性を有する建築家である。作品を通じて実現しようとするウチとソトの境界の広がりの豊かさは、決して建築にとどまることなく、いろいろな研究分野、あるいは生き方に心地よいインスピレーションを与えてく

---

れるだろう。

(\*) [http://www.iwan.com/photo House N Sou Fujimoto.php?  
plaat=House-N-Fujimoto-4267.jpg](http://www.iwan.com/photo/House_N_Sou_Fujimoto.php?plaat=House-N-Fujimoto-4267.jpg)

## 執筆者紹介

### 松田真希子

教育開発系講師。専門領域は、日本語教育、留学生教育、異文化間コミュニケーション。

---

【書名】 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『藤本壮介 原初的な未来の建築』藤本壮介・他著 INAX出版 2008年 1,890円

[ブックガイド目次へ](#)